

氏名： 鈴木 禎宏 (SUZUKI Sadahiro)
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系
職名： 准教授
学位： 博士号 (学術) (2002 年 東京大学)
専門分野： 比較日本文化論 / 比較文学比較文化、生活造形論
URL： <http://www.aesthe.ocha.ac.jp/~hp/suzuki/>
E-mail： suzuki.sadahiro@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

生活造形論 / 比較文化論 / 民芸運動と対抗産業革命 / 20 世紀イギリスのスタジオ・クラフト運動
Theory of Arts and Crafts / Comparative Literature and Culture /
Mingei Movement as counter-Industrial Revolution / British Studio Crafts Movement

◆主要業績

総数 (4) 件

- Sadahiro Suzuki, "Historiography of the Mingei Movement: Conditions and Possibilities", Proceedings of the 6th International conference of Design History and Design Studies, International Conference of Design History and Design Studies, 2008, pp. 286-289.
- 鈴木禎宏「時の結び目ということ 情報技術時代の子どもたちの成長について」、日本幼稚園協会『幼児の教育』フレーベル館、108(1)、2009 年、22-27 頁。
- 鈴木禎宏「ダーティントン・ホールとバーナード・リーチ：『中量生産』をめぐる」、藤田治彦編『芸術と福祉：アーティストとしての人間』大阪大学出版会、2009 年。
- 鈴木禎宏「【書評】今橋映子著『ブラッサイ：パリの越境者』白水社、2007 年」『比較文学』51 巻、2008 年、125-129 頁。

◆研究内容 / Research Pursuits

専門分野：
比較日本文化論 / 比較文学比較文化、生活造形論

主な研究課題：

- 1 二〇世紀イギリスの工芸 (Studio Pottery を中心に)
- 2 近現代日本の工芸 (民芸運動ほか)
- 3 その他日本とヨーロッパを軸とする比較文化論 (例えば、昭和初期の日本における「世界」観など)

My research subjects so far are as follows: (1) Aspects of "Art for Life's Sake" in Modern and Contemporary Japanese Cultural Scenes; (2) The History of the British Studio Craft Movement (mainly in the field of ceramics); and (3) A Mental Map of the Modern Japanese: A History of World Views Conceived by Modern Japan in the Period between 1905 and 1945.

◆教育内容 / Educational Pursuits

主な担当授業科目

(学 部) 比較生活文化論、比較生活文化論演習、比較生活文化史 I、生活造形論ほか
(大学院) 比較文化論、比較生活文化特論、生活造形特論、生活芸術論

学部 4 年間を通じ、「自分で問題をみつけ、その問題に自分で答えをみつけることのできる人材」の育成を目指しております。

この目的のためには、(1) 基礎技能を高めていくことと、(2) 専門性を高めていくことという、二つの事柄が重要です。

すなわち、(1) 語学などの基礎学力、問題設定能力、情報収集能力、分析・思考能力、発表能力などを高めていくことと、(2) 比較文化論という方法論を身につけ、異文化理解能力と異文化への発信能力を高めることです。

こうした観点から各学年の授業を組み立て、学部 4 年間で一通りの能力が身に付くように努力しております。

◆研究計画

生活造形論の理論化。いわゆる「情報技術革命」が文化のあり方に及ぼす影響の分析。

平成 19-21 年度 科学研究費補助金 基盤研究 B「欧州・朝鮮・南洋航路を中心とする戦間期日本における旅行記の比較文化的研究」研究分担者 (19320049)。

平成 20-22 年度 科学研究費補助金 基盤研究 C「バーナード・リーチと民藝運動に関する比較文化的研究」(20520320)。

◆メッセージ

日本語の「ハンカチ」と英語の“handkerchief”は似て非なるものですが、その違いをみなさんは御存知でしょうか。

「ハンカチ」とは「小型・方形の手ふき布」(『広辞苑』)であるのに対し、“handkerchief”は“a small piece of material or paper that you use for blowing your nose, etc.”(鼻をかむさいなどに用いる、一切れのものまたは紙)(Oxford 英英辞典)です。「ハンカチ」も“handkerchief”も一切れの布であることには変わりありませんが、それらが現実の生活において果たす役割は、文化によって異なることになります。

このような生活造形などを手がかりとして、文化の接触と変容の問題等に取り組んでおります。こうした問題を考える際には、(1)「異文化」を「自文化」に対して説明すること、および(2)「自文化」を「異文化」に対して説明すること、の 2 点を常に意識することになります。

文化と文化の接触の現場に興味があり、外国語の習得に意欲のある方を、歓迎いたします。